

行政視察等報告書

平成29年1月10日

米子市議会議長様

会派名 希望
代表者氏名 国頭
提出者氏名 国頭



下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	国頭 靖
期日	平成28年11月17日
〔概要〕（年月日・場所・内容） 平成28年11月17日（木） 場所：アットビジネスセンター池袋駅前別館（東京都豊島区） 内容：地方議会議員セミナーin東京 「地域包括ケアシステム」	
〔所感〕 別紙のとおり	
経費	旅費総額 67,120円

議員研修報告書

国頭 靖

日時：平成 28 年 11 月 17 日（木）10：00～12：30

場所：アットビジネスセンター池袋駅東口 6 階

題名：地域包括ケアシステムのこれからについて

講師：地方議会総合研究所 東京有明医療大学 千葉喜久也

所感

まず、最初に地域包括ケアとはのお話で国民のニーズは「家族に負担をかけずに在宅療養」することが意識調査でわかっており、両親が介護が必要になった場合の希望と自分が介護が必要になった場合の希望では、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」と「家族に依存せずに生活出来るような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」で共に 7 割から 8 割を占めており、施設よりなるべく自宅から離れたく無い事が明らかだ。しかし、施設に頼らないのなら、今後訪問介護人員が必要になるのは必然だ。今後の地域包括ケアの課題として(1)在宅困難者や介護放棄などへの対応で地域包括職員が追われる。(2)介護現場は、重度者に未熟練者が対応、ゆとりがなく、事故や介護職離れが加速。(3)ベテランの疲弊・燃え尽き(4)独居・認知症・生保にならない低所得・訳あり利用者が悪化する・・・施設待機者の増加(5)働く人の生活環境が悪化、ベテランの退職者が出る・・・仕事に就けない貧困が増加・介護難民の増加、介護保険の評価の低下等が挙げられ、在宅ケア移行における課題で①家族構成数の減少に伴う家族の介護力がない事例への対応（高齢者同士の老々介護、介護者も認知症・精神障害や疾病を抱えている、介護者の長時間勤務・失業、男性介護者の課題・・・）⇒介護者支援と虐待防止

②単身で身寄りが無い世帯の急増に伴う生活支援の課題⇒生活援助（家事支援）による環境整備の重要性⇒近隣による見守り・支え合い体制⇒成年後見制度や日常生活自立支援事業等の地域の権利擁護システムとの連携③単身で要介護 3，4，5 レベルの介護保険給付限度額の課題。特に夜間帯への対応⇒介護保険サービスのみでは対応できない、給付限度額を超えたケースへの対応⇒有料サービス導入時の個々人の財産問題⇒24 時間定期訪問・随時対応サービスの導入と今後④病院における退院前カンファレンス・在宅ケアチームとの双方向の連携の重要性⇒病院における総合機能評価と在宅チームへの情報提供⇒日常からの病院と地域スタッフの顔が見える関係構築⑤地域の在宅療養支援医院・訪問看護スタッフとの連携強化と情報整理の必要性・地域における社会資源の量的問題⇒地域における医療資源情報の整備と周知・的確な情報提供等実際に実行に移すためには様々な問題が発生する事も事実だ。その他、今後の動きとして介護保険料増額にともない低所得者の保険料減額、特養ホーム入所は要介護 1 から今後 3 に等、当市でも今後の動きも計りながら実行して行かなければならないと感じた。